

# 橋梁技術発表会及び講演会

## —伊藤学賞表彰式—

参加費無料

定員650名  
申込先着順

13:00~13:10

### 開会の辞

一般社団法人 日本橋梁建設協会  
会長 石井 孝

13:10~13:25

### 橋建協報告

『熊本地震に対する橋建協  
—齐点検調査』報告 熊本地震調査WG

## 第1部:技術発表会

13:25~14:05

### 1.自動化が進んだ鋼橋製作の今!

～鋼橋製作の移り変り～

製作小委員会 製作部会 恩田 直樹

14:05~14:15

### 休憩

14:15~14:55

### 2.大支間鋼単弦ローゼ桁の 送り出し架設

～送り出し支間147mの鋼・PC混合3径間連続  
アーチ橋の架設～

架設小委員会 架設部会 村岡 和郎

14:55~15:35

### 3.ここがポイント!保全工事の設計・積算

～設計・積算[施工]の観点から特殊な保全工事を紹介～  
保全委員会 保全第2部会 道下 誠司

15:35~15:50

### 休憩

## 第2部:伊藤学賞表彰式

15:50~15:55

### 1.受賞者紹介

15:55~16:00

### 2.表彰式

16:00~16:20

### 3.伊藤学賞受賞者講演

16:20~16:35

### 休憩

## 第3部:特別講演会

16:35~17:35

### 「鋼橋の疲労設計」の これまでとこれから

法政大学 デザイン工学部  
都市環境デザイン工学科 教授  
森 猛



17:35~17:40

### 閉会の辞

橋梁技術発表会 実行委員会  
委員長 上原 正

平成28年

日時

10/14(金)

13:00~17:40

会場

銀座プロッサム(中央会館)ホール

〒104-0061 東京都中央区銀座2-15-6

Tel.03-3542-8585

### 申込方法

- ①Fax. 03-3507-5235(裏面の用紙に記載)
- ②ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>  
の「技術発表会申し込み受付け」まで  
(受付は平成28年9月2日~9月30日)

### 申込期限

### 懇親会

### 連絡先

### 継続教育

### CPDS認定予定

※大阪地区は	10月21日(金)	ドーンセンター
中部地区は	10月28日(金)	東建ホール
北海道地区は	11月 2日(水)	北海道経済センター
東北地区は	11月11日(金)	仙台国際センター
九州地区は	11月18日(金)	レゾラNTT夢天神ホール (6地区開催ですが、発表テーマは異なります) 申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

技術発表会(第1部)の発表原稿(論文、PPT)は、当日配布をしておりません。ホームページに掲載しますので、各自ダウンロードして持参して下さい。

### アクセス



●東京メトロ有楽町線「新富町駅1番出口」徒歩1分

●東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線「東銀座駅3・5番出口」徒歩8分



主催: 一般社団法人 日本橋梁建設協会  
Japan Bridge Association Inc.

<http://www.jasbc.or.jp/>

# 技術発表会概要

## 1 自動化が進んだ鋼橋製作の今！

～鋼橋製作の移り変り～

国内の鋼橋製作の歴史は、130年余りを数える。近年、原寸のCAD化、NC切断、シミュレーション仮組などIT技術活用に伴い製作精度は格段の進歩をとげ、複雑かつ芸術性を兼ね備えた橋梁も誕生してきた。また、鋼材の進歩に伴う溶接技術の発達、自動溶接機に代表される様々な自動化、非破壊検査の適用拡大等、新たな技術の導入も進んでおり、耐候性鋼橋梁に代表される長寿命化に向けての取り組みも、一層活発になりつつある。鋼橋製作の歴史について振り返るとともに、これからの課題について考える。

## 2 大支間鋼単弦ローゼ桁の送り出し架設

～送り出し支間147mの鋼・PC混合3径間連続アーチ橋の架設～

本橋は、新名神高速道路 四日市JCT～亀山西JCT(仮称)間の路線に建設される橋長325mの鋼・PC混合3径間連続アーチ補剛箱桁である。

現地は、二級河川朝明川上を横断する国道365号バイパスの上に位置する条件から、中央径間の鋼単弦ローゼ部を夜間通行止めの交通規制を伴う、送り出し工法および降下により施工を行った。施工における問題点および対処法として、送り出し支間147mに対する手延べ機先端のたわみ量は約6mとなるため、たわみ処理作業にかかる夜間交通規制時間への影響が懸念された。対処法として送り出し支間内の道路上に多軸台車を用いた一夜ベントを設置し、手延べ機のリフトアップを行うことにより、たわみ量および到達時の処理時間の減少を図った。

## 3 ここがポイント！保全工事の設計・積算

～設計・積算[施工]の観点から特殊な保全工事を紹介～

大規模更新事業が高速道路会社や都市高速道路会社などで検討されており、今後本格的な事業開始を迎えることが予想される。しかし、これまでに大規模更新(修繕)工事の事例は少なく、施工した会社では設計や施工(主に積算)において苦労しながら進めてきたことが予想される。

そこで、本年の保全委員会での発表は、大規模修繕工事に参考となり得る過去に行った規模の大きな補修・補強工事を振り返り、「概要」と「発注者および建設コンサルタントが計画する際の設計・施工(積算)における留意点」に着目した発表を行うことで、大規模修繕工事の適切な計画と鋼橋保全事業の円滑な推進に寄与したい。

### 特別講演会 講演者紹介

#### 「鋼橋の疲労設計」のこれまでとこれから

森 猛

法政大学 デザイン工学部  
都市環境デザイン工学科 教授

#### 講演概要

2002年の道路橋仕方書改定までは、鋼床版の一部を除いて疲労設計の必要はないとされてきた。2002年の仕方書では、同年に出版された「鋼道路橋の疲労設計指針」に従うものとされていた。この指針のベースとなったのは1993年に公表された鋼構造協会の「鋼構造物の疲労設計指針」である。ここでは、これら2つの指針が作成された経緯と概要、2012年に改定された鋼構造協会の疲労設計指針の内容を紹介するとともに、これからの鋼橋の疲労設計についての私見を述べる。

#### —略歴—

1978年 東京都立大学工学部土木工学科卒業  
1980年 東京都立大学大学院工学研究科修士課程終了  
1982年 大阪大学大学院工学研究科博士課程中退  
1982年 東京工業大学工学部土木工学科助手  
1990年 法政大学工学部土木工学科専任講師  
1991年 同 助教授  
1996年 同 教授  
2004年 同 都市環境デザイン工学科教授  
2009年 同 デザイン工学部教授

FAX番号:03-3507-5235

平成28年度

10月14日(金)

**橋梁技術発表会**

[東京地区]

**参加申込書**

所 属	団体名	所属
氏 名	役職	氏名
住 所	〒	
電話番号	FAX番号	
E-mail		
前回参加の有無 有 · 無		